

### 第 98 回 問 154

中枢性及び末梢性筋弛緩薬に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 ベクロニウムは、筋小胞体のリアノジン受容体を遮断する。
- 2 ダントロレンは、骨格筋のニコチン性アセチルコリン受容体を遮断する。
- 3 チザニジンは、アドレナリン $\alpha_2$ 受容体を刺激し、脊髄多シナプス反射を抑制する。
- 4 スキサメトニウムは、血漿中のコリンエステラーゼにより加水分解を受けて活性体を生じる。
- 5 A型ボツリヌス毒素は、運動神経終末からのアセチルコリン遊離を抑制する。

#### 【解説】

- 1 誤：ベクロニウムは、骨格筋のニコチン N<sub>M</sub>受容体を競合的に遮断する。
- 2 誤：ダントロレンは、筋小胞体のリアノジン受容体を遮断する。
- 3 正：チザニジンは、アドレナリン $\alpha_2$ 受容体を刺激し、脊髄多シナプス反射を抑制し、筋弛緩作用を示す。
- 4 誤：スキサメトニウムは、血漿中のコリンエステラーゼにより加水分解され不活性化される。
- 5 正：A型ボツリヌス毒素は、運動神経終末からのアセチルコリン遊離を抑制し、筋弛緩作用を示す。

【解答】 3、5



yakugaku  
lab

<http://yakugakulab.info>